

能・狂言の歴史に触れる

所属・小助川元太

1. 授業の基本情報・概要

日本芸能史は、学校教員養成課程中等教育コース国語教育専修の国文学分野の選択科目である。本授業では日本の代表的な古典芸能であり、和の文化を象徴するものの一つである能狂言にテーマを絞り、渡来芸能としての散楽から徳川幕府に式楽として保護されるまでの、猿楽能の史的展開を辿る。

現在、国語の学習指導要領では「伝統的な言語文化」を重視し、小学校高学年から簡単な古文が導入されているが、以前は参考程度に教科書に掲載されてきた〈柿山伏〉などの狂言台本も、新しい検定教科書では授業で本格的に取り上げる教材として扱われている。これから教壇に立つ学生には、能狂言に関する正しい知識を身につけさせる必要があると考えている。

さて、今年度のシラバスに記載した授業の目的と目標は以下のとおりである。

【授業の目的】

能狂言の形成・展開を学び、テキストを読解することによって、日本を代表する芸能を深く知り、和の文化を見直すきっかけとする。

【授業の目標】

1. 能狂言に関する基礎知識を身につける。
2. 能狂言が他のジャンルの芸術に及ぼした影響を説明することができる。
3. テキストの読解を通して、能狂言に関する知識を深める。

上記の目標・目的を達成するべく、以下のような授業と評価を行った。

【授業の進め方】

1. 能狂言の歴史について
プリントを配付して講義を行う。
2. 作品講読
『風姿花伝』『申楽談儀』などの世阿弥の伝書や能の台本（謡曲）を読む。
3. 作品の鑑賞
能・狂言をDVDで鑑賞する。

【実際の授業内容】

第1回：ガイダンス。授業の進め方の説明。

第2回：散楽から猿楽へ

第3回：翁猿楽について

第4回：猿楽の伝承（『風姿花伝』神儀云）

第5回：猿楽の伝承（『風姿花伝』神儀云）

第6回：南北朝期の芸能界と観阿弥登場

第7回：観阿弥の大改革・〈自然居士〉

第8回：世阿弥と義満

第9回：観世座大夫としての世阿弥

第10回：義持と世阿弥・〈井筒〉

第11回：義教と世阿弥

第12回：元雅・〈隅田川〉

第13回：音阿弥と金春禅竹

第14回：金春禅竹・〈定家〉

第15回：試験・戦国～江戸の能狂言

【成績評価】

試験（60%）、レポート（20%）及び授業に取り組む姿勢（20%）により、総合的に評価する。

2. 授業評価・授業研究の内容

授業評価については、最終授業の際に匿名のアンケートを行った。（10名）質問項目は以下のとおりである。

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？
5. 意見・要望・感想・メッセージなどがあれば、書いてください。

3. 授業評価結果

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？

ア 真面目に取り組んだと思う。 （4名）

イ ときどき集中していなかったときもあった。 （6名）

ウ あまり真面目に取り組んでいたとはいえない。 （0名）

2. 授業内容は理解しやすかったですか？

ア 理解しやすかった。 （7名）

イ ふつうだった。 （2名）

ウ 難しかった。 （1名）

3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？（抜粋）

- 能や狂言が想像していたよりも分かりやすくおもしろかった。
- 『風姿花伝』に今の教育にも通じることが書かれていたこと。（2名）
- 能にも原作や元となった話があり、他の物語とつながっているところ。
- 天下人が能を保護したことで流行したが、昔の形のままで現代に伝わっていること。
- 能の演出。能の歴史（当時の歴史等）との関わり。（2名）
- 世阿弥の作品をもっと見てみたい。
- 狂言がとてもおもしろかった。家に帰ってから親にも話していました。
- 能や狂言の視聴（2名）。
- 最初に見た「萩大名」が衝撃的でした！

4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？（抜粋）

- もっと難しく、わかりにくいというイメージが覆された。
- 能楽論のところで年来稽古条々の年齢ごとのアドバイスがとても深いと思いました。
- 史実に登場する天下人が面白いと感じたものを、今自分が見ても面白いと感じられたところ、時代の隔たりと連続性が同時に感じられたから。
- 演出は様々な方法がありましたが、人の代わりに着物を置くなど、能ならではのものに、能の世界観が感じられて面白かった。歴史の変化、保護される人の変化や寵愛の変化で芸風が異なっていたり、民間に普及されていくさまがわかって面白かった。
- 古文を脚色しているの、違いを見つけるのが楽しい。狂言は現代人が見てもおもしろいところが分かりやすいところ。
- ほとんど初めてに近い能だったので、話し方や進行がおもしろかった。
- より面白くしていくために、新しい要素を取り入れていったのが興味深かったです。和歌の内容を取り入れたりするのがすごいと思いました。
- （狂言は）まずは言っていることがわかることです。あとはコメディなかんじ

です。クスッと笑えるところがいくつもあって、見ていて楽しかったです。

5. 意見・要望・感想・メッセージ（抜粋）

- 最初はどんな授業なのかとどきどきしましたが、とてもおもしろかったです。能や狂言のおもしろさを実際に感じてみたいと思います。
- スライドをまとめて moodle にあげていただけると助かります。
- 能や狂言についていろいろと新しく知ることができてよかったです。
- 古典をもう一度勉強したいと、この授業を受けて思いました。
- この授業で、これまで全く知らなかった日本芸能について歴史や特徴を学ぶことができた。また私たちには難しいと思っていた能や狂言が想像よりも見やすくおもしろいと感じた。もっと日本の芸能に関心を持ってみようと思う。
- いつもスライドがとても分かりやすく、先生の話もしっかりメモを取ることでより理解できました。
- 全体を通して楽しかったです。

3. 「授業時間外学習の促進」について

とくに宿題を出したわけではないが、授業で配布をした参考資料で、授業では触れなかった部分については、各自読んでおくようにほぼ毎回指示をした。

4. 総括

本授業は8年目になるが、毎年アンケートの結果をもとに、スライドや授業の内容、資料などを少しずつ改善してきた結果、授業を通して、堅苦しいイメージで敬遠されがちな能・狂言に親しみを感じることができたり、猿楽の歴史や文学としての能本（謡曲）の魅力に気づくことができたりする学生の割合が増えてきていることを実感する。また、今年度の受講生は学校教員養成課程に特化したカリキュラムになってから2年目の入学生が中心であるが、能と古典文学との関わりや世阿弥の能楽論が現代の教育にも通じていることに関心を持つ学生が例年よりも増えた。これは良い傾向だと思う。なお、今年度から新しいテキストを指定することにしたが、やや遣いにくいので、今後再検討したい。